

図書館創立100周年の

11月3日はイベント盛りだくさん！

「としょかん・じどうかん・アテネ3施設合同まつり」

図書館 ☎26-3004 <http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/section/toshokan/>
NPO法人FOR YOU にこにこの家 第一児童館 ☎25-7070



身近で親しみの持てる施設づくりと市民の交流を図るため、「図書館・児童館・アテネ3施設合同まつり」を開催します。

子供も大人も皆さんが楽しめるお楽しみコーナーや、古文書づくり、世界に一つだけのしおりづくりなどの各コーナーなど盛りだくさん！ 気軽にお越しください。

- 日時 11月3日(祝)9:00～12:00
※本・DVDの貸し出し通常業務(9:00～17:00)
- 場所 図書館・第一児童館・アテネ
- 内容 あそび、ゲーム、読み聞かせなど

白石市図書館創立100周年記念講演会「白石歴史おはなし会」

図書館 ☎26-3004 <http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/section/toshokan/>

白石和紙の商人同士の取り決めなどを記録した渡辺家文書

「仲間義定録」安政4(1857)年などの解説をもとに、白石和紙の生産が、当時の庶民生活に及ぼした影響や効果などについて話をします。申し込みは不要ですので、皆さん気軽にお越しください。

- 日時 11月3日(祝)14:00～16:00
- 場所 図書館2階閲覧室

- テーマ 「商人の町」白石と江戸時代
- 講師 東北大学東北アジア研究センター准教授 荒武賢一朗氏ほか
- 定員 先着80人(申し込み不要)
※図書館閲覧室は歴史おはなし会開催のため、11月2日(日)～3日(祝)は利用できません。

「白石の妖精ぴち」アフレコたいけん会

旭プロダクション宮城白石スタジオ ☎22-1281

ひお越しください。

- 日時 11月3日(月・祝日)14:00～15:30
- 場所 情報センターアテネ1階
- 内容

アニメ上映

「白石の妖精ぴち」

「白石の妖精ぴち-歴史編-」

「白石の妖精ぴち-緑地公園のぴち-」

「白石の妖精ぴち-放課後の秘密基地」

アフレコ体験

「白石の妖精ぴち」のアニメにセリフを合わせるアフレコに挑戦！ ぴちの声がみんなの声になっちゃいます。めったにできない体験をしよう！



白石市が舞台のアニメーション「白石の妖精ぴち」の上映会と、アニメ声優に挑戦できるアフレコ体験会を開催します。市内小学生を対象にしたアニメーション制作を身近に感じてもらえるイベントですので、ゼ

図書館の原点

開館当時の蔵書紹介

筆記書集伝 12巻7冊 中村之欽(楊斎) 著
刊本 江戸時代(出版年など詳細不明)



この資料は「飯田蔵書」(印記：明治記念文庫)の一冊。日本人著作の漢籍であり、現存するものは国内でも数少ない資料である。

太守慶邦公御入部記
写本 天保13(1842)年



伊達13代藩主慶邦公が、天保12(1841)年に襲封し、翌13年5月仙台に初入部した時の記録である。この時は白石城に宿泊し、仙台に向かったのだが、片倉家は総力を挙げて接待・警護に当たったことなどが細かく記されている。

芭蕉翁発句集 蝶夢 編
刊本 安永5(1776)年



この資料は、白石小学校創立時の教諭である飯田氏が寄贈した「飯田蔵書」(印記：明治記念文庫)の一冊。白石の古文書として貴重なもので、芭蕉の俳句集である。

弘化安政耳袋 武藤弘毅 編
刊本 不明 写本 明治5(1872)年



この耳袋は、北海道開拓に参加した人たちが、白石に残留した知人や友人にあてた書簡の写しで、入植までの困難や開拓当時の様子などが克明にかかれていて、とても珍しい資料である。武藤弘毅は、片倉家(宗景)、邦憲、景範の3代に仕え、記録役の筆頭として公私の記録を作成。

Interview

創立100年に思う

白石市図書館は、今年で創立100年目という節目の年であります。大正3年9月に白石第一尋常高等小学校教師であった故・飯田氏のご子息より蔵書の寄贈をいただき、大正3年11月同小学校内に創立しました。

その中に安永5年ごろに刊行された貴重な本が含まれており、これが「明治記念文庫」となり、現図書館の原点であります。その後も町の方々の蔵書の寄贈や経済的な援助で「明治記念館」は成り立ち、幾多の歴史を経て現在の図書館があります。

コンピューター導入以前の図書館は、主にその館が所蔵する資料で調査し、問題解決をしていましたが、インターネットの普及と各図書館が互いに本(資料)を貸し出す「相互貸借制度」が定着した今日では、全国の図書館の蔵書について検索し、地元の図書館を通して借り受けすることができます。つまり、全国の図書館をひとまとめに考えた場合、蔵書の本数は膨大な数になるということです。

図書館は、お子さんから大人まで「疑問」や「知りたいこと」などの「情報」を集める生涯学習の拠点です。今後も、ビジネス支援、健康・医療、子育て、介護、進学・進路、団塊の世代のセカンドライフなどさまざまなケースに沿った資料を提供し続けられるように努めてまいります。また、直接来館できない方のために、移動図書館車「こまぐさ号」で各施設や地区への巡回をし、一人でも多くの方が読書が楽しめる機会を継続していきます。

近年、図書館や読書を取りまく環境は電子書籍の導入・指定管理者への業務委託など、変化していくこととされています。しかし、図書館がこれから歩み出す100年も「読書の魅力」は不変であることを伝えていきたいと考えています。



小関市次郎 館長